

令和3年11月10日（水）

第29回職業リハビリテーション研究・実践発表会

第3分科会：難病・高次脳機能障害

# 高次脳機能障害者の復職における アセスメントの技法開発



独立行政法人高齡・障害・求職者雇用支援機構  
障害者職業総合センター職業センター開発課

○大工 芙実子・三浦 晋也

# はじめに

## 障害者職業総合センター職業センターにおける 高次脳機能障害者の支援プログラム

**休職者**

職場復帰支援  
プログラム  
(16週間)

**求職者**

就職支援  
プログラム  
(13週間)



障害理解の深化、障害の補完手段と  
対処行動獲得のための支援

# 技法開発の背景

- 受障前の自己像との違いへの戸惑いや障害特性等から、対象者が症状又は課題の自覚が難しいことがある。
- 障害が一見して分かりにくく、脳の損傷部位等により症状の現れ方が異なり個別性が高い。



「高次脳機能障害者の復職における

アセスメントの技法」の開発

# 高次脳機能障害者の職場復帰支援の流れ

## 対象者 (ツール②)

①障害特性を整理し、職業生活上の課題について理解を深める(ツール①)

②生活リズムを整える、健康を管理する、通勤の練習をする等

③課題への対処策(補完手段)の習得を図る(ツール③)

④復職後の職務に必要な作業遂行力の向上を図る

⑤職場に依頼する配慮事項を整理する

## 情報交換

## 事業所 (ツール④)

①対象者の障害特性と就労上配慮が必要なことを確認する

②職務や配置、労働条件を検討する

③復職を想定している部署に障害特性や必要な配慮を説明する

③ 復職部署に障害特性や必要な配慮を説明する

(リハビリ出勤)

事業所にて復職可否の判断

復職

在宅生活の安定

医学的リハビリテーション

受障

# 障害特性を整理する

## 支援ツール①特性チェックシート

### <概要>

障害特性による職業生活場面への影響を具体的に確認する

### <コンセプト>

障害特性を日常生活や職業生活上の具体的な行動レベルの困難さと結びつけて整理することが狙い

### <活用方法>

- ・対象者が自らの障害をどのように認識しているか把握する
- ・支援の方向性や配慮事項を具体的に検討するための一次資料
- ・事業主に障害特性の具体的な現れ方を説明する際の材料
- ・複数回実施することで障害特性の認識の変化を追う
- ・残存している機能にも注目できる

# 特性チェックシート

主な症状別（注意障害、記憶障害、遂行機能障害、半側空間無視、失認、失行、易疲労、気づき、失語、社会的行動障害）にシートを構成しました

## 表紙

### 高次脳機能障害特性チェックシートについて

#### チェックシートの目的

このチェックシートは高次脳機能障害について、様々な特性が職業生活にどの様に影響しているかを全体的に把握するためのものです。特性別に項目を分類してありますが、専門的に判定をしようとするものではなく、多様で個人差が大きく、とらえにくいと言われる高次脳機能障害の特性を、具体的な職業生活場面に応じて整理し、療育の方向性や手立てを考えるヒントを得ようとするものです。

#### 回答の仕方

それぞれの項目について、普段の職業生活のなかであてはまるかどうかを考えて「はい」、「ときどき」、「いいえ」の3つから1つを選んで回答してください。現時点で、自分のことをどのようにとらえているかを教えてください。正しいと間違っているということはありませんので、思ったとおりに教えてください。項目の意味がわからないときには、空欄のままでもかまいません。

#### 留意して頂きたいこと

高次脳機能障害は、障害の内容や症状の現れ方が非常に多様であり、このチェックシートの項目でその全てを網羅している訳ではありません。ご自身で障害の特性を把握したり、ご自身と家族など周りの方との障害認識の違いを確認するための補助的役割として活用いただけます。

#### その他

特徴的な項目のみ抜粋した簡易版もありますので、適宜ご利用ください。

高次脳機能障害 特性チェックシート (一部例)					
下記の障害特性について自分に当てはまるかどうか、次の三択で回答してください。					
主な症状	注意を向けるべき対象に適切に注意を向けること(選択性)や注意を長時間維持することが難しい(持続性)。複数の対象に同時に注意を払うこと(分配性)や状況に応じて注意の対象を切り替えることが難しい(転換性)。				
	全般性	何となくぼんやりしていることが多い。	はい	ときどき	いいえ
	選択性	周りの音や声に注意が散って作業ができない。	はい	ときどき	いいえ
持続性	1つのことに長く集中して取り組めない。	はい	ときどき	いいえ	
⋮					
主な症状	情報を覚えたり、保持したり、必要な時に引き出すことが難しい。				
記憶障害	前向き健忘	受障後に経験したことが思い出せない。 (例：受障後に知り合った人の名前や顔が中々覚えられない)	はい	ときどき	いいえ
	逆向性健忘	受障前に経験したことが思い出せない。 (例：家族や上司の名前を思い出せない)	はい	ときどき	いいえ
	エピソード記憶	発症前の仕事内容や思い出の記憶があいまいである。	はい	ときどき	いいえ
⋮					

# 対象者の基本情報、周辺状況

## 支援ツール②高次脳機能障害者

### 職場復帰支援アセスメントシート

#### <概要>

障害者職業総合センター研究部門が開発した幕張ストレス・疲労アセスメントシート(MSFAS)をもとに高次脳機能障害者の職場復帰支援に関わる対象者の基礎情報から周辺情報をアセスメントをするためのシート

#### <コンセプト>

多面的な支援課題に関わる情報を網羅的、効率的に確認、整理することが狙い

# 高次脳機能障害者職場復帰支援アセスメントシート

フェイスシート A.生活習慣・健康状態 B.ストレス・疲労情報 C.サポート体制  
D.医療情報 E.事業所情報等の項目で構成しました

## シートDの一部

### シートDの表紙

MSFASシート（高次脳職場復帰）シートD

障害・病気に関する情報を整理する

自分の障害・病気の現れ方や症状を知っておくことで、早めの治療や相談につなげることができます。また、障害・病気に関する適切な知識をもつことで、ストレスや疲労を軽減する手がかりを探ることが容易になります。

障害・病気に関して、自分がどの程度、どのように理解しているか、整理してみましょう。

氏名 \_\_\_\_\_

記入日 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

### 1 治療・リハビリの経過を整理しましょう。

(1) 高次脳機能障害が発症した時の状況、受障した時の状況を整理しましょう

高次脳の発症原因	・脳血管 ・頭部外傷 ・脳腫瘍 ・脳炎 ・低酸素脳症 ・その他 ( )
発症原因に係る疾患名	
発症日・発症年齢	_____年 _____月 _____日 ( _____歳)
発症時の状況	
高次脳機能障害診断	・あり (診断日: _____年 _____月 _____日) ・なし
神経心理学的検査の結果	・あり ( ) ・なし
高次脳機能障害の症状	・記憶障害 ・注意障害 ・遂行機能障害 ・社会行動障害 ・地誌的障害 ・半側空間無視 (左・右) ・失語 ・失行 ・失認 ・その他 ( )

### (2) 高次脳機能障害以外の症状について整理しましょう

てんかん等のけいれん発作について	
あり・なし	(頻度) ・ほぼ毎日 ・週1回程度 ・月1回程度 ・半年に1回程度 ・年1回程度以上 ・1回のみ (服薬) ・あり (予防的な服薬も含む) ・なし
発作時の状態	
発作の前兆・起きやすい環境	
発作時の対応	
生活習慣病(高血圧・糖尿病など)の既往歴について	
あり・なし	(診断名)
精神疾患(うつ病・適応障害など)の既往歴について	
あり・なし	(診断名)
身体症状について	
麻痺	あり・なし ( 右上肢 ・ 右下肢 ・ 左上肢 ・ 左下肢 ・ その他 )
疼痛	あり・なし ( 右上肢 ・ 右下肢 ・ 左上肢 ・ 左下肢 ・ その他 )
その他	
使用している補装具について	



# 障害に対する対処策の検討

## 支援ツール③対処策一覧シート

### <概要>

プログラムにおける実践で蓄積した支援事例等をもとに、  
症状別に、環境調整の工夫と自己対処の工夫の2方向でア  
プローチ

### <コンセプト>

障害特性に応じた自己対処策や職場に求める配慮事項を検  
討する際の参考資料とすることが狙い

### <活用方法>

- ・ 支援者が対象者の特性に対してどのような対処策があるか  
検討するときの参考資料
- ・ 支援者と対象者が一緒に対処策を検討するときの参考資料
- ・ 支援者が事業主に環境調整の提案をするときの参考資料

# 対処策一覧シート

主な症状別（注意障害、記憶障害、遂行機能障害、半側空間無視、失認、失行、易疲労、失語、社会的行動障害、気づき、身体障害）に、各々環境調整の工夫と自己対処の工夫の2方向でアプローチしました

## 注意障害

### (一部例)

環境調整の工夫	
物理的環境整備	<input type="checkbox"/> 必要以上の刺激が入らないように座席の位置を工夫する、作業場所を壁側に配置する、パーテーションを使って視界を遮る。
疲労のマネジメント	<input type="checkbox"/> こまめな小休憩を認める。
関わり方	<input type="checkbox"/> 指示内容は、一度に一つずつ、ゆっくり伝える。
⋮	⋮

## 自己対処の工夫

疲労のマネジメント	<input type="checkbox"/> 日々の睡眠など、生活全体の見直しを検討する。
外的補助具の活用	<input type="checkbox"/> ふせん、手順書、チェック表、アラーム、タイマー、拡大鏡、老眼鏡などを活用する。

## 記憶障害

### (一部例)

## 環境調整の工夫

定型化	<input type="checkbox"/> 1日のスケジュールをできるだけ固定して過ごすよう生活を組み立てる。
	<input type="checkbox"/> 日課や行動のパターン、スケジュール、ルールをできるだけ決めておく。
手がかり	<input type="checkbox"/> ドアの内側など動線上に持ち物のチェックリストを貼る。
関わり方	<input type="checkbox"/> 情報や指示は短い言葉で伝え、対象者にメモしてもらう。
⋮	⋮

## 自己対処の工夫

整理整頓	<input type="checkbox"/> 道具や物の置き場所を一定の位置に決めていつも同じところに戻す。
	<input type="checkbox"/> 覚えなくてもその場で見て分かるように棚や引き出しにラベルを貼る。
外的補助具の活用	<input type="checkbox"/> 外的補助具を活用する。(メモリーノート、ふせん、手順書、アラーム、タイマーなど)

# ケースフォーミュレーション

## (支援課題の明確化と目標設定)

- 収集した多様な情報を統合しながら支援課題を明確化し、介入方法を組み立てる方策
- 複雑な情報を図式化することで、情報をまとめ、整理し、解決すべき支援課題や取り組むべき支援方針の見立てを立てる

### <活用方法>

- アセスメントにより収集した情報を整理し、一覧にして関係者間で情報共有する
- 支援課題に係る仮説を立て、支援方針を検討する

# ケースフォーミュレーションシートの例 NIVR

環境要因

受傷前	【家族】	【地域生活】
	【仕事】	【支援機関、サポート体制等】

受傷後	【家族】	【地域生活】
	【仕事】	【支援機関、サポート体制等】

【原因となる疾患・外傷など】

【支援課題】

【当面の目標】

個人要因

【認知面】（記憶、注意、遂行機能）

【感情】（うつ、不安、適応）

【その他】

【身体面】

【障害認識】

# 事業主支援

## 支援ツール④事業主のための高次脳機能障害者の 職場復帰支援「参考資料集」

### <概要>

事業主が休職中の高次脳機能障害がある従業員の職場復帰を検討する際の参考資料

### <コンセプト>

高次脳機能障害についての基礎的な知識や職務内容・配属先の検討、必要な配慮事項、職場の理解等、事業主が悩む内容に応じて参照できる

### <活用方法>

事業主が職場復帰のためにどのような準備が必要か知り、具体的に検討するために参考とする

# 事業主のための高次脳機能障害者の職場復帰支援「参考資料集」

「高次脳機能障害とは」「高次脳機能障害の主な症状と合併することが多い障害・疾患」「職場復帰支援の流れ」「職場復帰支援のポイント」「職務や配置、労働条件検討の考え方」「職務内容検討のためのワークシート」「業務内容例」「職場の合理的配慮例」「事例紹介」等の項目で構成しました

## 1. 高次脳機能障害とは

高次脳機能障害は、病気や事故などのために脳の一部が損傷されることにより生じる認知機能の障害です。高次脳機能障害の原因として、交通事故や、脳卒中、脳炎、脳腫瘍などの病気があります。



## 2. 障害特性

脳の損傷部位の違いにより、症状や重症度は一人ひとり異なります。症状としては、例えば以下のようなものがあり、一人において、複数の症状が重複する場合があります。

### ■ 記憶障害



昔のことが思い出せなかったり、日々のできごとや新しい情報、予定などを覚えることが難しくなります。

### ■ 注意障害



物事の細部に注意を払うことや、集中力を長時間維持すること、複数の対象に同時に注意を向けることなどが苦手になります。

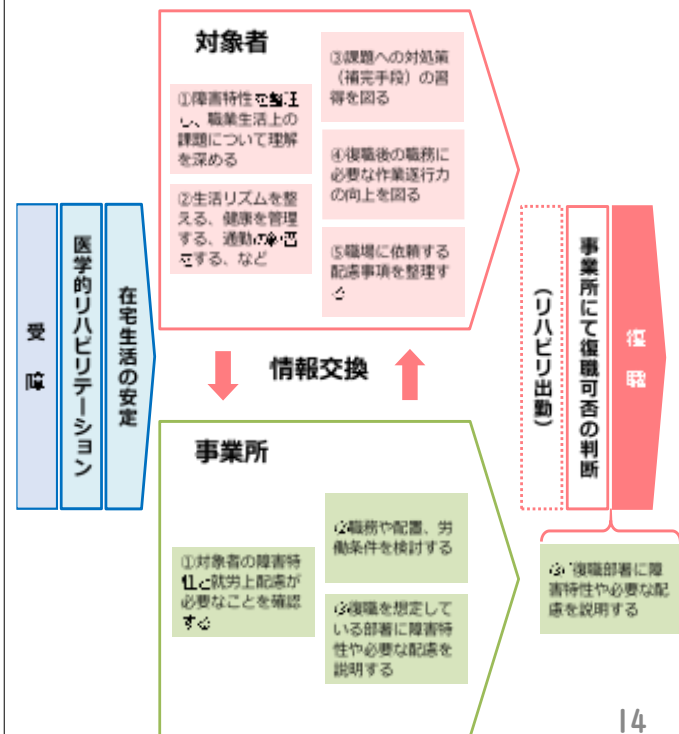
### ■ 半側空間無視



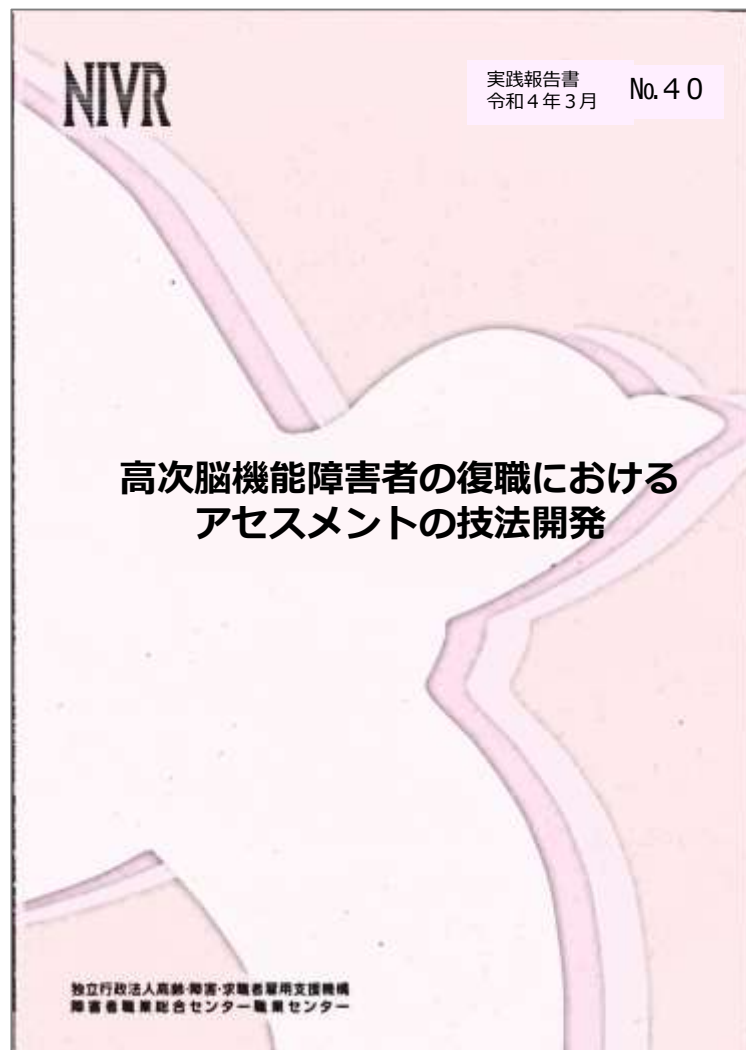
左右どちらかの空間（多くは左）への注意が弱くなる症状です。左側の物にぶつかる、左側に置いた物を忘れるといったことがあります。

## 職場復帰までの流れ

治療やリハビリテーションにより自立の見通しがたってくると、復帰に向けた準備を始めます。復帰の際には、職務の見直しが必要になる場合が多いため、対象者の復帰に係る希望や障害特性などを確認します。その上で、対象者が力を発揮できそうな職務の検討、人的な支援体制の整備などを進めていきます。



# 今後の方向性



令和4年3月に  
実践報告書NO.40発行予定です。  
実践報告書では、ご紹介した支援ツールの他に、対象者の特性を事業所と情報共有する方法や、支援ツールを活用した事例、神経心理学的検査の解説の紹介を行う予定です。